

# 吉田宗の自治剥奪等は 帝国主義の大学支配の完成だ

討論資料 by C斗

非常事態だ！ いまこそ決起せよ！

## I 政府は大学を人民支配の道具にしようとしてきた

政府・文部省は戦後一貫して、侵華軍等に対する痛苦な反省をふみにじって、大学を戦前の如き国策支配の下におくために、掠奪的立法、攻撃を行ってきた。政府は大学の自治をふみにじり、人民支配のための道具に大学をしようとしている。

- ▶ 60年安保斗争で示された学生運動の力をつぶし、大学を「国家」のために機関につくりかえようとして文部省内閣から出した大嘗法は、反対斗争の爆発で廃案に追い込まれた。
  - ▶ 68-69年大学斗争の爆発は大学問題が完全にオーバー級の治安問題と化したことを見つけた。大学当局の文部省への完全な屈服は、大学の機動隊支配の攻撃を促進したが、しかし、学生運動爆発と70年斗争への合流はおこりとどめることはできなかった。(参考: 沢澤)

63年 大醫法

国立大学運営法（案）および國立大学運営法の施行に伴う教育公務員特例法等の一  
部を改正する法律（案）

69年 大学治安立法

(目的) 第一条 会の貢献  
状況にかか  
る。大学によ  
りたたかく、  
力をもつて、  
に關し緊密  
て大学に、  
施を圖る。  
(定義)  
第一条 とは、大  
法第2条  
をいう。  
敵の占領  
生(これ  
同じ)。  
大学にお  
贈され

に關する臨時機関法  
昭和四四年八月七日  
法律第七〇号

(教育等の休止及び停止)  
第七条 競争大学の学長は、大學競争を  
取扱うため必要の者とし、あらまこと

中核派二十名が文部省突入

全集  
六千が国会テモ

## 人民の怒りを佐藤内閣

第一回 喝で学校は廢校ノレと云う相

社会の崩壊、機会均等主義の瓦解→政治  
選舉上、全般的に憲法の實力が弱く变成了

73年新大醫法·病波法主

▶ 形式的な大学の自治すら否定し、全国の大学の反対化＝「統一化」をすすめる手口として制定された。

## II 大学は真理と学問をなげ捨てたのか

60年安保



▶ 60年安保斗争に際しては学生ぐるみで斗争に立ち上る大学まであつたのだ。東京教育大（筑波大の前身）では学長朝永振一郎自らか、学生と共にその実績に立った。

▶ しかし、70年斗争においては大学当局はたゞねいの凶暴な反教者として登場した。京大では当局が、民青や右翼学生、教官に武器を支給し、权力と一緒にした斗争破壊を進めようとしたのだ。

そして、今や、決定的な



### 大学の変質＝侵略と反動の培化が進行中

文部省の自決案つまり京大当局が手を下して進める二つは、文部省の政府の道徳化を完成させたものとする。

既教職の庄吉直輝、平和問題懇親会の高坂正也ら、京大人は中曾根のブレーン政治、戦争国家化に奉公協力している。人文研究グループ（京都学派）の日本第一・日本文化研究センター構想は、天皇尊崇のための「専門」である。大学が天皇尊崇、復辟尊崇としてめりかたのうれづうとしているのだ。

中曾根は昨年十月、京都で梅原猛（京都市立芸大校長）ら五人の学者（いわゆる京都学派）と懇談し、「日本文化研究所」設立の構想を確認した。  
そして中曾根主導下で、すぐさま六十年度予算三二千万台の調査費が計上され、自民党政調会内に中曾根派議員を中心、「日本文化研究・交流に関する小委員会」が作られた。同小委は六月二十一日に「日本文化研究・交流の推進について」という提議をまとめ、その中で「国立の国際日本文化センターを設立する」とうたっている。

「行け行け！」  
「日本の権利のことば！」  
「日本学」には  
権利尊重の専門  
学科だ！

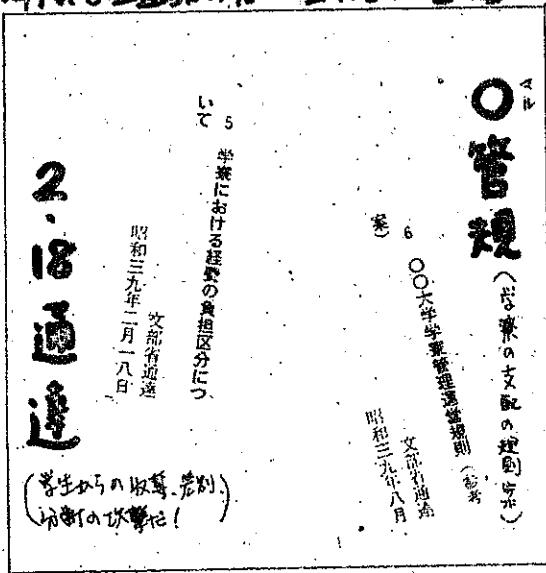
### 京都学派も取り込む

「戦後四十年になつて、天皇陛下在位六十年になつてもう一回、日本のアイデンティティを、これだといふものをつくるときがきた。  
だから私は国際日本文化研究センターをつくろうとしている。」

中国侵略の最もの一九三四年、「日本独特の文化をもつて諸外国に教へを垂れんとする」ため「日本文化連盟」が設立され、紀元二千六百年（紀元節）記念行事として「日本文化大観」が開かれ、国民統合のために「国民自覚運動」が日帝によって行なわれた。いままた中曾根はそれと同じことをやろうとしているのだ。

### III 70年以降の政府・文部省による学寮への攻撃の集中

60年代、学生運動の力で「2・18」「0管規」は却下

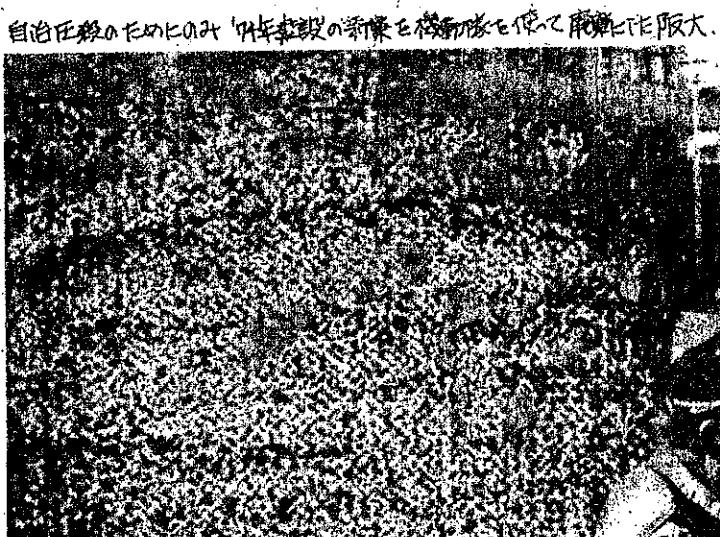


▶ 加算斗争の爆発に打撃をうけた政府・文部省は、学生運動の拠点であると同時に、大学自治の最強の砦である自治寮を破壊するために全力をあげてきたのだ。

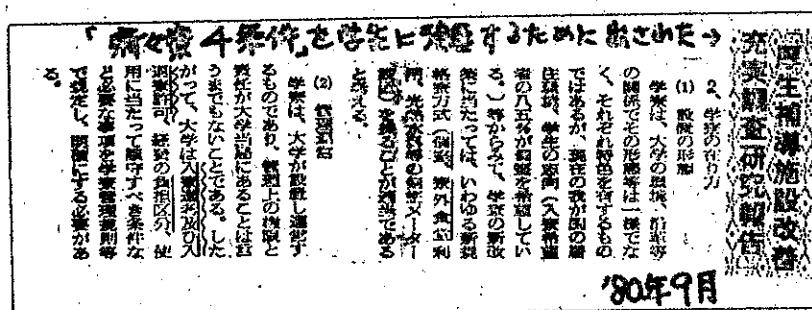
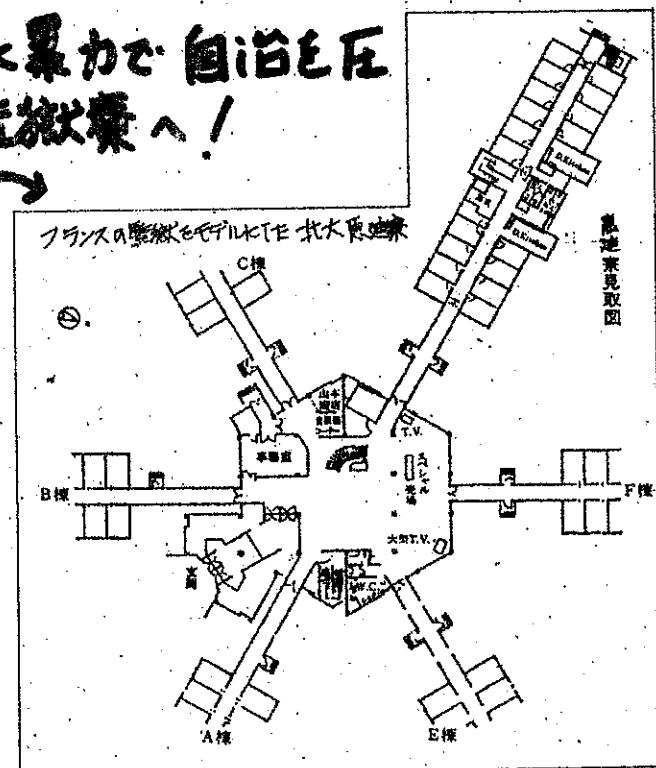
▶ 「老朽化」をテコとして自治寮在校の改革を許してはならぬ。

▶ いまや、自治寮をめぐる攻防の中止、学生運動と大學自治の命運の一切がかかる、ている。全学が不退転の決意で非常協約に斗いぬく吉田寮生と共にドドカウカラば、勝利は確実なのだ。

機動隊暴力で自治を瓦解し、監獄寮へ！



自治寮のためのみ「中央建設」の新棟を機動隊を使って南側に大阪大トクラン車両を止め、外に取り出しづラックアント・クレーン車を入りリード車両を抑める。「1つでも入ってある。すぐハグってやる！」と罵り抗議する。



▶ 新政権(①入室権の当局専権②便益配分③個室④食堂なし)代政争の核には、学生運動と自治の瓦解だ。学生の政治活動はもちろん、一切の自主的活動が禁じられる。「老朽化」そのものだ。

▶ 吉田寮「左期」攻撃は、東大における自治運動の一貫的進行を許すの役立つかのやかた全学の問題であり、同時に、全国斗争の頂点をねらうとして、絶え間ない攻撃がかかる。

### IV 吉田寮自治瓦解は京大が帝国主義の反動と暗黒の牙城になる道を一挙にひらくものであり、全国学寮破壊の頂点だ!!

いまこそ起て！ 1.31C代大 (法經1)  
4時 → Cストへ